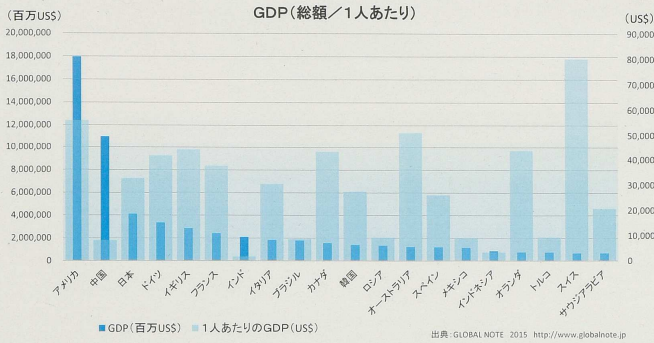


世界の医療事情

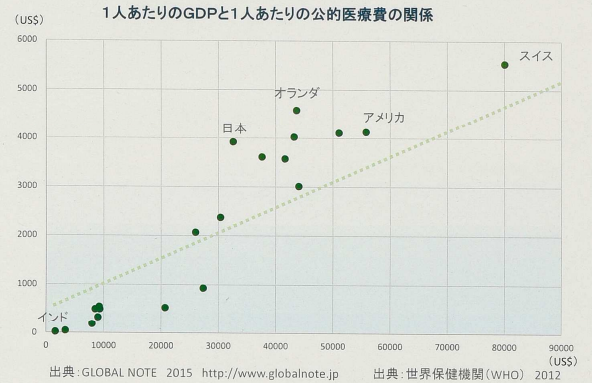


Medizinische situation der Welt

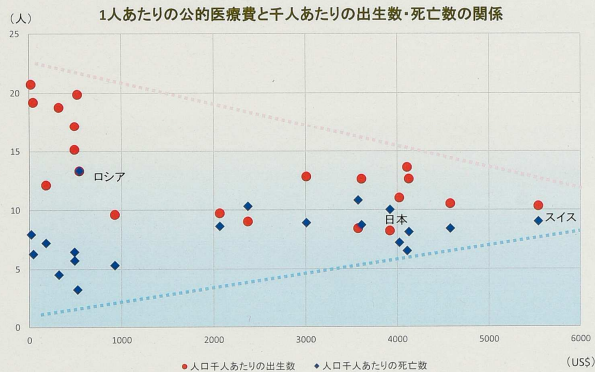


GDPとは
Gross Domestic Product 国内総生産。国内でその国の人が(1年間に)生産したサービスや商品の付加価値の総額である。

グラフを見てわかるように、アメリカが1番GDP総額が高い。中国は2番目にGDPが高いが1人あたりのGDPと比べると、貧富の差が激しいことがわかる。インドも中国と同じようにとらえることができる。逆にスイスではGDPは低い、1人あたりのGDPが高い。

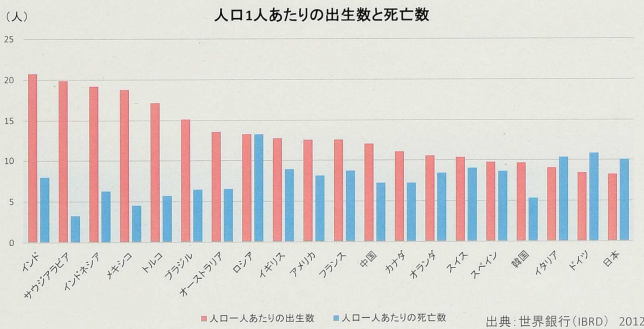


1人あたりのGDPと1人あたりの公的医療費の関係を散点図で表してみると、右上がりの傾向が見られる。つまり、1人あたりのGDPが高いほど、1人あたりの公的医療費が高い傾向にある。



出典: 世界保健機関 (WHO) 2012

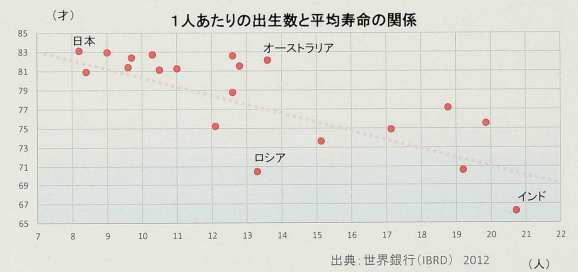
出典: 世界銀行 (IBRD) 2012



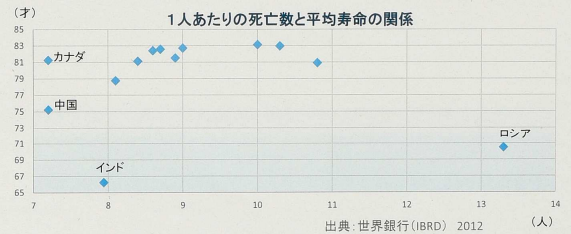
出典: 世界銀行 (IBRD) 2012

【まとめ】

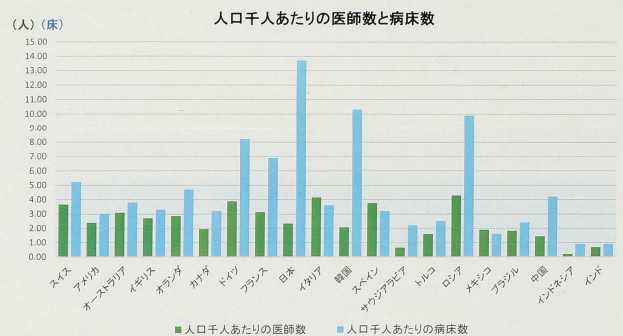
アメリカは世界で一番GDPが高いが、人口1人あたりの医療数と病床数で比べてみると少ない方である。このことから、GDPは高くても、必ずしも医療に力を入れているとは限らないといえる。また、インドやインドネシアは世界でもあまり医療が発展していないということが分かった。逆に、日本などは医療が発展していることが分かった。



出典: 世界銀行 (IBRD) 2012



出典: 世界銀行 (IBRD) 2012



出典: 世界保健機関 (WHO) 2010

この棒グラフを見て1番最初に目に入るのは、日本の人口千人あたりの病床数が多い点である。そこから比べてみると、日本は人口千人あたりの医師数はあまり多くない。そして、全体を見てみるとインドネシアが総合的に医療に対する意識が低い可能性がある。(このグラフでは1人あたりのGDPが多い順に左から表記している。)